

平成29年度 特別活動部会研究計画

1 研究主題

望ましい集団活動を通して、自発的、自治的な活動を大切にしながら、自己を生かし、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる特別活動

2 研究主題について

(1) 主題設定の理由

本部会では、自主的、実践的な態度を育てる特別活動とは、次のような資質や能力を育成することと考えて取り組んできた。

- 自らの個性や能力の伸長を図りながら、互いの個性や立場を尊重する態度
- よりよい生活や人間関係を築く力
- 周りの人々を思いやり、協力する態度や社会に参画する態度
- 集団や社会の一員としての自覚や自治的能力
- 自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力
- 自分の考えを深め自信をもって伝える力

これまで、今日的課題の解決を目指して「人間関係を築く力」や「自己を生かす能力」を養うとともに、自主的・実践的な態度を育てることを目指し研究に取り組んできた。これらの取組は、学力向上やいじめ等の未然防止などにもつながる学級や学校の支持的な風土を醸成することにもつながっている。そこで本年度も昨年度の研究主題を継承し、よりよい生活や人間関係を築こうとする子どもの育成がさらに図られるよう研究を深めることとして、本主題を設定した。また、特別活動におけるアクティブ・ラーニングの研究をどのように行うか考えていくようにする。

(2) これまでの成果

① 教師の姿勢

- ・ 教師が「子どもたちの活動の時間と場を確実に保障していくこと」や「適切な指導のもとに、活動の流れを大切にしながら、子どもたちの活動を継続して見守っていくこと」が大切である。
- ・ 全教師が共通理解を図り、子どもが自主的・実践的な活動をするための適切な指導を積み重ねていくことで、学校全体に取組が広がる。

② 子どもの変容

- ・ 自分のよさに気づき、活動の中でそのよさを生かしていこうとする意識が高まってきた。
- ・ 自分たちの生活を見つめ直そうとする問題意識が高まり、友達とともによりよい学級・学校生活を目指して、主体的に問題解決に取り組む態度が身に付いてきた。
- ・ 互いのよさや思いを認め、共に高め合い、協力しながら活動する態度が身に付いてきた。
- ・ 日常の学習や生活の様々な場面において、学級活動や異年齢集団活動の経験が生かされ自主的に取り組もうとする態度が身に付いてきた。
- ・ 少数意見や異なる意見を大切に、折り合いを付けながら解決を図り、「自分も周りも楽しい学級や学校にしたい」という意識が高まってきた。
- ・ 異年齢集団活動を通して、高学年は思いやりの気持ちや責任感、低学年は尊敬や感謝の気持ちが芽生えてきた。
- ・ 自分に自信をもち、自己実現できる子どもや友達のよさに気付くことができる子どもが育ってきた。
- ・ 「計画・話し合い・実践・振り返り」を積み重ねることで、自分たちの問題を自分たちで解決し、自分たちで学級や学校を改善しようとする態度が育ってきた。
- ・ 複式学級や少人数学級における学級会の充実を図ることによって、学年を越えて互いの意見を積極的に伝え合う態度が育ってきた。

このような自尊自律、人間関係調整力、自治的能力などの豊かな人間性や社会性、友達への思いやりやいたわりといった道徳的な態度が育ってきた。

3 研究の方向

- (1) 育成すべき資質・能力を明確にした上で、全体計画や年間指導計画、指導のめやすなどを見直し、さらに望ましい集団活動のあり方について検討を加える。
- (2) 指導内容の特質に応じて、自主的、実践的な活動を効果的に取り入れた指導のあり方について研究する。
- (3) 自主的、実践的な態度を育てるための教師の適切な指導のあり方について研究する。
- (4) 特別活動におけるアクティブ・ラーニングの方向性について研究する。

4 研究の内容

各活動・学校行事について、各内容の基礎的・基本的事項をとらえたうえで、確実な定着を図る。また、各内容の特質を生かしながら指導と評価の一体化を図り、「新・特別活動ハンドブック」、「特別活動グッズ集CD」さらには、「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」の活用を一層推進し、次のことについて研究を進める。（*「新・特別活動ハンドブック」と「特別活動グッズ集CD」については、県立総合教育センターのHPよりダウンロード可能）

(1) 指導計画の作成

① 特別活動の全体計画の作成

- ・ 全教職員の共通理解を図り、協力体制が確立するようにする。
- ・ 特別活動の目標が調和的かつ効果的に達成するために教育課程を工夫する。

② 年間指導計画の作成

○学級活動

- ・ 学校で作成した年間指導計画をもとに、学級ごとの学級活動の年間指導計画や1単位時間の指導計画を作成する。
- ・ 学級活動においては、活動内容(1)の時間を十分確保する。議題の選定に当たっては自発的、自治的な活動が効果的に展開できることを配慮する。
- ・ 活動内容(2)については、[共通事項]ア～キの各内容を1単位時間以外の時間を含めて必ず取り上げるようにする。
- ・ 現在及び将来の生き方について考え、自己を生かそうとする生活態度を育てる指導を工夫する。
- ・ 働くことの大切さや意義を理解させるとともに、望ましい勤労観や職業観を育てるための指導方法を研究する。

○児童会活動

- ・ 学校の実態をふまえて、児童会活動の組織を編成する。
- ・ 月に1回、代表委員会を実施するように計画を立案する。
- ・ 学校行事の運営への協力を図る。

○クラブ活動

- ・ 子どもの興味・関心をふまえて計画し、実施し、成果の発表をする。
- ・ クラブ活動については、週時程の中に位置付け、年間20～30単位時間実施する方向で計画を立案する。

○学校行事

- ・ 学校行事の一部を子どもたちが分担し、自主的運営ができるようにする。

③ 指導計画作成上の配慮事項

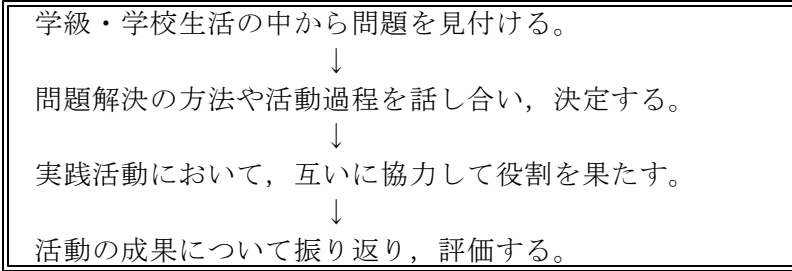
- ・ 子ども、学校、家庭、地域社会の実態に応じ、創意工夫をする。
- ・ 各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などとの関連をふまえる。
- ・ 道徳の時間との関連については、特別活動の特質を生かして道徳教育の内容との関連を考え、日常生活における道徳的実践の指導の充実を図る。
- ・ 全教職員の共通理解のもと、各活動・学校行事の相互の関連を図る。
- ・ 自発的、自治的な活動を助長できるように、学校の目指す児童の姿を明確化し、学校や学年、学級の指導目標や育てたい態度や能力を明らかにする。
- ・ 言語活動の充実を図る。

(2) 指導内容

特別活動において、自主的、実践的な態度を育てるということは、「なすことによって学ぶ」

という特別活動の特質を具現化することである。自己を生かし、よりよい人間関係を築くとは、望ましい集団活動の中で、自ら問題を見付け、自らの考えを築き上げ、集団の成員とともに協力し合って問題を解決していく資質や能力を養うことである。

その集団活動を規定する自発的、自治的な活動とは、



⇨ 集団討議による
集団目標の集団決定
 <学級活動の活動内容(1),
 児童会活動,
 クラブ活動において>

といった子どもたち主体の活動と考える。この自発的、自治的な活動を重視することを念頭に置いて研究を深める。

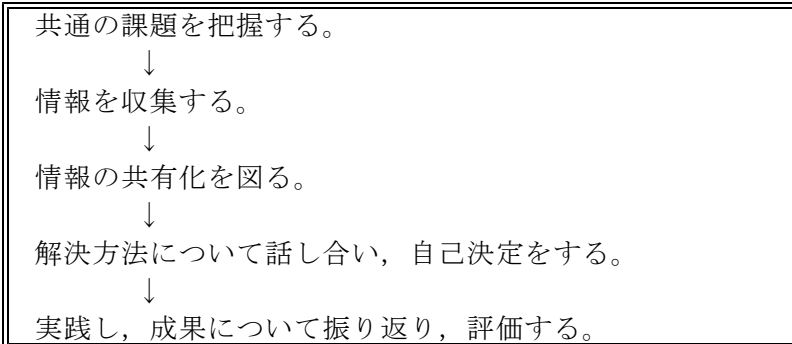
① 学級活動の充実

○活動内容(1)

- ・ 集団討議による集団目標の集団決定ができる望ましい活動の展開のあり方
- ・ 学級や学校生活の充実と向上、改善を目指し、主体的に諸問題の解決に取り組む活動をするための組織づくりや運営の仕方
- ・ 自発的、自治的な活動過程における教師の適切な指導のあり方
- ・ よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動の充実
 【思考のステップ「出し合う→くらべ合う→まとめる(決める)」の可視化や板書の構造化等の工夫】
- ・ 1単位時間の学級会や複式学級、少人数学級における学級会を充実させる工夫

○活動内容(2)

- ・ 集団思考を生かした個人目標の自己決定ができる望ましい活動の展開のあり方として、



⇨ 集団思考を生かした
個人目標の自己決定
 <学級活動の活動内容(2)>

が、これまでの研究の成果として考えられている。この展開を生かしながら、研究を深める。

- ・ 自主的、実践的な活動を効果的に取り入れた活動内容(2)の展開の工夫
 【思考のステップ「つかむ→さぐる→見付ける→決める」の可視化や板書の構造化等の工夫】と指導の改善(調査活動、ロールプレイ等の活動方法の工夫)
- ・ 自主的、実践的な活動として考えられる例

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の適切な指導のもと、事前活動から司会グループが関わる。 ・ 司会グループによる進行で集団思考をする。 |
|---|

- ・ 指導のねらいや目指す姿を明確にした授業展開の工夫

② 児童会活動の活性化

- ・ 学校生活の充実と向上を図る「児童会の計画や運営」「異年齢集団による交流」「学校行事への協力」の活動内容を充実するための工夫と、成員の願いやよさを生かした異年齢集団活動としての児童会活動のあり方と場や機会の確保の工夫
- ・ 自発的、自治的な代表委員会の話し合いの展開と教師の適切な指導のあり方
- ・ 各学年の意見が反映されるような話し合いの工夫
- ・ 多様な異年齢集団活動の充実の工夫と展開のあり方
- ・ 児童の自主的、実践的な活動を大切にされた委員会活動の工夫

③ クラブ活動の計画的な実施

- ・ 興味や関心を追求する異年齢集団活動としての組織づくりや時間の確保などの運営の仕方と「クラブの計画や運営」「クラブを楽しむ活動」「クラブの成果の発表」の活動内容を充実するための工夫
- ・ 自発的、自治的な活動過程における教師の適切な指導のあり方

④ 学校行事の充実

- ・ 一人一人の子どもの参加意識や期待感を高め、活動の過程（事前活動・体験活動・事後活動）を重視するための工夫
- ・ 自然の中での集団宿泊体験や多様な人々との交流体験、文化的な体験などの活動内容を充実するための工夫と指導のあり方
- ・ 自主的、実践的な活動を取り入れた効果的な学校行事の展開の工夫と教師の適切な指導のあり方
- ・ 家庭や地域との連携を図り、信頼を得ることのできる学校行事の工夫

※ これらの4つの内容の指導については、それぞれの特質を生かしながら、他の内容との関連を図った指導をすることも考慮する。また、より自主的、実践的な活動が充実するように「学級集団の育成上の指導のめやす」や「発達の段階に即した指導のめやす」の改善を図る。

(3) 評価

① 活動における個や集団の変容を重視し、活動意欲の向上につながる評価のあり方

- ・ 育てたい態度や能力を明確にとらえた評価
- ・ 教師が行う評価の内容や方法の工夫改善
- ・ 子どもが行う自己評価、相互評価の工夫改善
- ・ 活動を振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動を充実させる工夫
- ・ 活動過程における子どもの学びやよさを大切に評価の工夫

② 指導の改善に生きる評価の工夫

- ・ 自発的、自治的な活動の一層の展開につながる指導計画、指導方法の評価のあり方
- ・ 発達の段階に即した指導のめやすの作成と具体的な評価規準の設定
- ・ 児童会活動やクラブ活動、学校行事における教師間の連携した評価の工夫

③ 自主的、実践的な態度を育てる評価のあり方

- ・ 事前、本時、事後の一連の活動後に行う「振り返り」を、次の活動へ生かす工夫
- ・ P D C A サイクルの定着

5 研修の計画

(1) 研究の部会および各郡市の研究分担は、別表の通りとする。

(2) 平成29年度特別活動夏季研究協議会

期日 平成29年8月9日(水) 会場 徳島県教育会館

(3) 平成29年度徳島県小学校特別活動研究大会

期日 平成29年11月17日(金) 会場 吉野川市川島小学校

(4) 実践研究の成果をまとめ、研究紀要「特活 第61集」を刊行する。

		発表郡市	協力郡市
学級活動(低学年)	28年夏季研	小松島市	海部郡, 勝浦郡・那賀郡, 阿南市
	29年夏季研+統一大会	海部郡	小松島市, 勝浦郡・那賀郡, 阿南市
学級活動(中学年)	28年夏季研	徳島市名東郡	名西郡
	29年夏季研+統一大会	徳島市名東郡	名西郡
学級活動(高学年)	28年夏季研	板野郡	阿波市, 鳴門市
	29年夏季研+統一大会	阿波市	板野郡, 鳴門市
児童会活動	28年夏季研	勝浦郡・那賀郡	阿南市, 小松島市, 海部郡
	29年夏季研+統一大会	阿南市	勝浦郡・那賀郡, 小松島市, 海部郡
クラブ活動	28年夏季研	名西郡	徳島市名東郡
	29年夏季研+統一大会	徳島市名東郡	名西郡
学校行事	28年夏季研	板野郡	鳴門市, 阿波市
	29年夏季研+統一大会	鳴門市	板野郡, 阿波市
研究大会会場	28・29年夏季研レク 29年大会会場郡市	美馬市美馬郡 吉野川市	

